

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2018 年度事業報告ならびに決算報告

【 2018 年度事業報告 】

1. 2019 年度から 5 年間の財団の指針となる「第 3 次中期計画案」について、藤井博志先生（関西学院大学 人間福祉学部教授、当財団理事）を委員長とする策定委員会を立ち上げ、同委員会での討議を経てまとめました。
2. 支え合う地域づくりをめざし、多様な活動に取り組む 159 グループに対し、総額 924 万円のボランティア活動助成を行いました。
3. 社会的課題解決にチャレンジする団体を賛同企業とともに応援する「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、13 社から寄付を得て、3 グループに対し総額 138 万円の助成を行いました。また同プロジェクトの賛同企業である伊藤ハム（株）、（株）ナリス化粧品、日本製紙クレシア（株）とコラボイベントや学習会を開催しました。
4. 「古本募金 きしゃぼん」の取り組みが広がり、約 82 万円の寄付額になりました。

I. 地域や暮らしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援

1. ボランティア活動助成

(1) 2018 年度助成の分野別実績

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
①	福祉	高齢者	49	1,766,000	19.1
		障がい者	26	1,579,000	17.1
		地域住民	11	542,000	5.9
		在日外国人	1	100,000	1.1
		施設・病院	1	10,000	0.1
		その他(がん患者)	1	15,000	0.2
		合計	89	4,012,000	43.5
②	まちづくり		6	483,000	5.2
③	文化・芸術		0	0	0.0
④	国際協力		1	149,000	1.6
⑤	男女共同参画		1	176,000	1.9
⑥	子ども育成		41	2,588,000	28.0
⑦	環境の保全		20	1,759,000	19.0
⑧	その他(フードバンク)		1	73,000	0.8
合 計			159	9,240,000	100.0

(2) 「市民活動交流会 2018」を開催

2018年5月16日には、財団から「ボランティア活動助成」を受けるすべてのグループが一堂に会する「市民活動交流会 2018」を生活文化センターで開催しました。交流会の冒頭に「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」の賛同企業の紹介と感謝状の贈呈を行いました。また、初年度の受賞グループである「播磨オレンジパートナー」が活動報告を行いました。

その後の交流タイムの企画・運営は昨年同様、助成団体の代表者による実行委員会が担当しました。

交流タイムはグループワークのファシリテートを松尾やよいさんが担当。各グループの活動の紹介とともに、運営の工夫について活発に情報交換が行われました。この会を通して、顔の見える関係ができ、互いのグループを訪問したり、一緒にできる活動を企画するなど、その後の連携のきっかけになっています。

(3) スタッフがグループ訪問し、地域課題を共有

2018年度助成の決定グループをスタッフが訪問し、グループがとらえている地域の課題や、活動の現状についてヒアリングを行いました。

1年間で、21グループについて訪問しましたが、その内容についてはチーム会で共有化を図り、テーマによっては運営委員会でも論議し、支援のしくみについて検討しています。

2. 社会人の学びと研究助成

(1) 2018年度助成対象者

この助成制度は、「ボランティア活動を担う人を育てる助成」として2006年度にスタートしました。応募者の在籍大学の偏りや目標設定の見直しのため、2014年度・2015年度は募集を中止、2016年度に募集を再開して、今年度は下記の1人に助成を行いました。2019年7月13日に公開報告会を企画し研究の成果を共有する予定です。

お名前	在籍する大学院	プロフィールと研究内容
末永美紀子 (25万円)	放送大学大学院文化科学研究科 生活科学プログラム専攻	看護師資格をもち、2004年に医療的ケア児・障がい児と健常児の統合保育に取り組む認可外保育施設「ちっちゃな保育所」を開設、2015年、神戸市小規模保育施設「ちっちゃなこども園ふたば」「よつば」、障害児通所支援事業「て・あーて」開設。「小規模保育事業における園外保育のリスクマネジメント」が研究テーマ。

() 内は助成金額

3. 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」

(1) 第2回「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト助成」

(上限 50 万/団体、予算総額 160 万円)

社会的課題を新しい手法で解決しようとする意欲あふれる市民団体を、賛同企業と力を合わせて応援しようと、2016 年度に「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げ、2017 年度に第 1 回目の助成を行いました。

この助成では財団としては初めて、「NPO など法人格のある団体も応募可能」とし、対象団体の幅をひろげています。

第 2 回目となる今年度は 19 団体が応募し、書類選考を通過した 6 団体が 7 月 3 日の公開選考会に進みました。当日は約 50 名が参加する中、各団体がプレゼンテーションを行い、賛同企業とともに選考し、下記 3 団体への助成と残金 22 万円の次年度への繰越を決定しました。

グループ名/プロジェクト名	プロジェクト内容
非営利型一般社団法人 子育て園ぽかぽか (38 万) プロジェクト名 / インクルーシブな社会の実現に 向けて～施設間のタテのつなが りから子どもの将来を考える～	障害児が健やかに育つには、小さい頃から認められ自己肯定観を高めることが大切です。そのため、学校、地域、家庭が連携し、一貫性をもって子どもに関わることが重要です。こどもの施設、保護者、就労に関わる事務所が繋がり、長期的な視点で子どもの将来について考える機会を作ります。
特定非営利活動法人 二求の塾 (50 万) プロジェクト名/ フリースペース NIGU 立ち上げ プロジェクト	不登校で悩む子どもたちがほっとできる居場所、同じ悩みを抱える仲間を見つける交流の場の提供や、不登校のお子さんをかかえる保護者の交流会を行います。また、二求の塾のスタッフが講師となり、不登校のお子さんへの声掛けや対応などを学ぶ勉強会を実施します。
ひょうごアディクション フォーラム実行委員会 (50 万) プロジェクト名/ 兵庫県でアディクションフォー ラムを開催し依存症への理解の 輪を広げよう	兵庫県では、依存症への理解不足や差別・偏見による孤立や、支援者間のネットワークがなく、長期的な回復支援には程遠い状況です。そこで、フォーラムを開催（2月2日）し、依存症の当事者や家族、自助グループ、支援者、市民が一堂に会し、互いに学び合い、回復に向けた協働関係の構築を目指します。

(2) 賛同企業の拡大

2016 年度に地元企業 7 社のご賛同により、プロジェクトを立ち上げ、2017 年度から地元企業という枠を外して賛同企業を募集しました。コープこうべの宅配事業、店舗事業、商品部などのご協力により、2017 年度に 6 社、2018 年度には 5 社が新たに加わり、賛同企業は 18 社となりました。

4. ひと育て、学びの場の充実

(1) 研修事業を実施・助成

ボランティア活動のすそ野を広げたり、レベルアップのために地域で企画された研修事業に対しての助成を行いました。コープこうべ地区活動本部などが、コミュニケーションや、対人援助、認知症予防講座などを開催しました。参加者が、新たにグループを立ち上げるなどの動きにつながっています。

当財団主催で実施した研修も含め、13講座に429人が参加しました。

II. 地域に当財団の理解者、支援者を拡大

1. 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」コラボイベント開催

同プロジェクトのコラボイベントとして、賛同企業の1つである伊藤ハム(株)とともに11月18日に六甲再度山で、「山仕事プチ体験」を開催しました。

伊藤ハム(株)では、市民・行政・企業が協働して、六甲山の森林保全活動を行う「こうべ森の学校」を長年支援されています。定員を超える申し込みがあり、当日は親子連れを含む50名が、森の手入れを体験しました。

また、(株)ナリス化粧品が障がい者とともに運営している工場の見学・学習会や、コープこうべの助け合い活動のボランティアを対象とした学習会の講師として、日本製紙クレシア(株)のケアアドバイザーを紹介するなど、コラボ企画をすすめました。

2. 助成グループの活動を積極的に広報し、共感を広げる

(1) ツムギスト（広報ボランティア）の活動

地域に支援者を広げていくためには、助成金がどんなグループや活動に活用されているかについて広報することが最も有効なのではないかと考え、2018年度も助成グループの広報に力を入れました。

その1つとして、昨年度好評だった、ツムギスト養成講座をコープこうべの人材開発と連携して行いました。ツムギストは助成グループを実際に訪問して、地域や参加者がどう変化したかなどについて話を聞き、”物語“を紡ぐ広報ボランティアです。当財団の評議員でもある桜間裕章氏（神戸新聞社 前論説委員長）を講師にお迎えし、取材の仕方やインタビューを実際に体験し、学び合いました。

助成グループからの参加希望があったため、今年度はコープ職員だけでなく、助成グループのメンバーにも参加いただきました。

(2) ホームページで助成グループのイベントを掲載

グループが財団に支援してほしいこととして、「広報活動」があることを受け、2017年度から、助成グループが広く参加者を募集したいイベントや学習会について、財団のホームページで掲載を始めました。2017年度は29件でしたが、2018年度の掲載件数は41件と、依頼件数も増えています。

(3) 募金などの広報ツール

10月の集中募金のチラシ、ポスター作成にあたっては、2つの助成グループを取材し、その活動内容を訴えることで、募金を求めました。また、3名の寄付者からのコメントも掲載し、寄付者の目線で共感いただけるよう工夫しました。

Ⅲ. 財団の基盤の安定をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図る

1. 資金調達の強化

(1) 賛助会費・寄付・募金について

2018年度の実績は、賛助会費・寄付・募金の総合計 13,025,027 円でした。

(2) 古本募金「きしゃぼん」の取り組み

2016年の7月から新たに取り組み始めた「古本募金 きしゃぼん」は組合員の年代、ニーズにマッチし実績を伸ばしています。今年度は、計 813,497 円の募金に成長しました。また、地域からの要望に応え、「きしゃぼん」広報のための「のぼり」、A3 サイズのポスター、A1 サイズの「タペストリー」などのツールを開発し、希望のグループやコープの店舗などに配布しました。

(3) 夕食サポート事業との連携

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用 1 食あたり 0.5 円を当財団に寄付いただいています。

(4) 基本財産運用

2. 財団の基盤、人材育成の強化

(1) 財団の中期ビジョンの策定

2019年度から5年間の財団の指針として「第3次中期計画案」を策定しました。策定前には、藤井博志先生（関西学院大学 人間福祉学部教授 当財団理事）と、深尾昌峰先生（龍谷大学 政策学部教授）を講師に迎え公開学習会を開催しました。その後、藤井先生を委員長に、9名の専門家で構成する第三次中期計画策定委員会を組織して討議を行い、2019年3月に「第3次中期計画案」を策定しました。

(2) 財団スタッフのスキルアップ

(3) コープこうべと連携した広報や人材育成の連携強化

① コープこうべの事業媒体に掲載

2018年度も、コープこうべの関連部署による広報活動が行われました。

- ・『めーむ』 欄外情報（タブロイド・カラー）1月4週号 47万部発行
- ・コープこうべの夕食サポート「まいくる」の紹介パンフレット

② 財団の研修やセミナーなどへのコープこうべ職員の参加促進

③ 財団サポーター登録と協力の推進